

副助詞

…(だに・すら・さへ・し・のみ・ばかり・など・まで)

だに

類推(くサエ)

軽いものを挙げて重いものを類推する「まして」を探す。なければ「まして」以下を補ってみる。ただ入試では「まして」以下を補えという問題は出題されないから安心してくれ！

・田舎世界の人だに見るものを、

(|| 田舎に住む人でさえ見る、へまして都の人なら絶対見るのに)

最小限の願望(セメテくダケデモ)

最小限の願望の意味のときには、「だに」の下に意志・命令・願望・仮定がくることが非常に多い。

・御文をだに物せさせたまへ命令形

(|| せめて手紙だけでもお書きなさい)

すら

類推(くサエ) … 「だに」とほぼ同じ用法だが、上代

(奈良)に使われ、中古(平安)になると漢文訓読文や和歌にみられる程度。

・ただの人すら、ひととせを夜昼恋ひくらして

(|| 普通の人でさえ一年中夜昼なく恋いしがりつづけて)

さへ

添加(くマデモ)↓(Aに加えて)Bマデモ

・空のけしきなどさへ、あやしうそこはかたなくをかしきを

(||地上の景色に加えて)空の様子などまでも、どここということもなく趣深いものを)

し

強意(なくても意味は変わらない)∴接続助詞の

「ば」と呼応して「∴し∴ば」の形をとることが多い

・思へども身をし分けねば目かれせぬ雪の積もるぞわが心なる

(||いつも主君のおそばにいたいと)思っていますけれども、我が身を二つに分けることはできませんので、絶え間なく降る雪が積もって帰れませんのは、私の望む心であります。)

のみ

限定(ダケ)∴たまに「バカリ」と訳す時もある。

強調(トクニ・タダモウ・モツパラ・ヒタスラ∴)

・ただ、波の白きのみぞ見ゆる

(||ただ波の白いのだけが見える)↓波が荒れていると
いうこと)

ばかり

程度(ゴロ・ホド)

- ・大納言ばかりに沓とらせ奉り給ふよ
- (Ⅱ大納言ほどの人に沓をとらせ申し上げなさるよ)

限定(ダケ)

- ・今年ばかりのいとまを申しつれど
- (Ⅱ今年だけの猶予を申したけれども)

cf.

「しも」「し」は副助詞・「も」は係助詞(意味は強意)
などかくしもよむ(強意)↓「しも」をどかしても意味は
変わらない